

むくげ通信 296 号 2019. 9. 29

## うたごえ運動で歌われた朝鮮の歌（5） 山根 俊郎

### 「青年歌集」11 冊を購入

私は、2019年7月16日にヤフオクで「青年歌集」11冊セットを1,000円で購入した。（別途に送料510円必要）

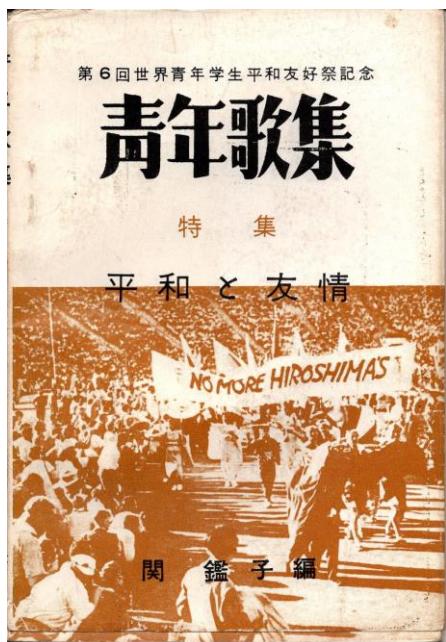
保存状態はとても良かった。

内訳は第1篇～第7編=1961年再版、第8編=1962年再版、第9篇=1965年再版、第10篇=1969年初版のものである。表紙は初版と同じく若い女性たちが合唱している写真で飾られていた。サイズは初版と同じである。

値段は、100円である。その後、1970年に全編が内容は同じで、表紙だけ変更して200円に値上がりして再版されたことが分かる。

### 「青年歌集」特集号

実は、1957年に1冊臨時で出版されたものがある。第5篇（1956年）と第6篇（1960年）の間に臨時に発行された。77ページと通常（140ページ）より半分程度にページ数が少ない。



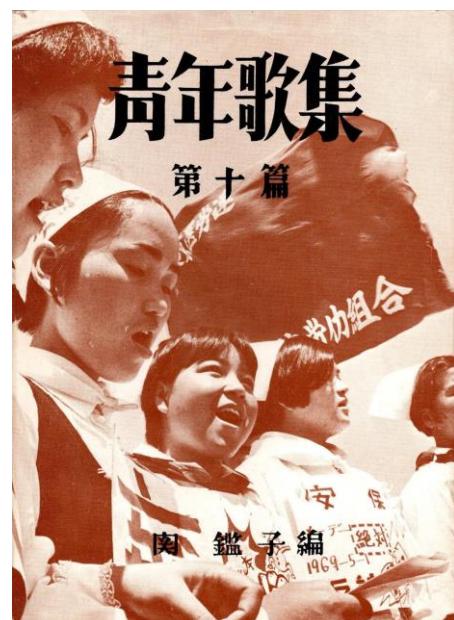
1957年（昭和32年）6月25日発行  
1961年（昭和36年）8月15日再版  
定価80円、地方壳価85円、送料10円  
編集者 関鑑子、発行人 野上銀次郎、発行所 音楽センター 第6回世界青年学生平和友好祭記念特集 平和と友情 1956年ソ連の首都モスクワ

で開催された。日本のうたごえ運動の指導者である関鑑子（せき あきこ）が国際レーニン平和賞を受賞した。

北朝鮮の歌は、2曲収録されている。（歌の番号次々ページに掲げる「青年歌集の朝鮮歌謡38曲」による）

19『美しきわが故郷』朝鮮歌曲、金提善編曲 P43～P44、→元歌：1953年『美しいわが故郷』（アルムダウン ネゴヒヤン・아름다운 내고향）朴テヨン（박태연）詞、金福潤曲＝「青年歌集」第5編（1956年）で紹介済み。  
8『海の歌』金舜石作詩、朴韓奎作曲、許南麒訳詩 P44～P45、→元歌：1947年『海の歌』パダエノレ・바다의 노래、金舜石詞、朴韓奎曲＝1970年全編改訂時、第3篇 P88～P89に収録。

### 「青年歌集」第10篇



1969年（昭和44年）12月1日発行  
定価200円、地方壳価205円、送料45円  
編集者 関鑑子、発行人神田国善、発行所 音楽センター 中央合唱団創立20周年記念

北朝鮮の歌は、最大の6曲が収録されている。何とこの頃にレコード発売禁止問題で大きな関心を集めた北朝鮮の名曲『リムジンガン（臨津江）』が「朝鮮の歌」のコーナーではなく、巻頭の3曲に含まれているのである!!!

『祖国きづく ぼくら』中央合唱団作詞、大西進作曲 P4-5

『リムジンガン（臨津江）』朴世永作詞、高宗漢作曲、李錦玉訳詞 P6

→元歌：1957年『リムジンガン』（臨津江・임진강）

朴世永詞、高宗煥曲

『ラ・マルセーズ』フランス、ルデュート・リール作詞、作曲、関鑑子訳詞 P7-P11

『リムジンガン（臨津江）』の訳詞をしたのは常連の許南麒（ホ・ナムギ）ではなく在日女性詩人の李錦玉（リ・クムオク）であった。

以下の説明は、フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』による。

李錦玉（りくむおく、1929年1月30日 - 2019年7月2日）は日本の児童文学作家。本名・李金玉。大阪生まれ。金城女子専門学校（現金城学院大学）卒業。2004年詩集『いちど消えたものは』で第35回赤い鳥文学賞、第9回三越左千夫少年詩賞を受賞。詩誌「バオバブ」「みみづく」同人。東京都中野区在住。朝鮮民話の再話も多い。

その他の朝鮮の歌は、次の5曲である。

36『つつじ』ソ・イル・ホン作詞、チョン・トウ・チヨル作曲、フォ・ナム・キイ訳詞 P106-P107

→元歌：1962年『つつじ』（진달래）서일홍詞, 전두철曲

35『ふぶき』ソ・クワン・ヒ作詞、パク・ハン・キュ作曲、フォ・ナム・キイ訳詞 P107-P109

→元歌：1961年『ふぶき』（오 눈보라 눈보라）石光輝詞, 朴韓奎曲

38『東海に橋をかけよう』フォ・ナム・キイ作詞、サイ・トウ・キヨク作曲、音楽センター訳詞 P110-P111

→元歌：1969年？『東海に橋をかけよう』（동해바다에 다리를 놓자）許南麒詞、崔東玉曲

33『黄金のリンゴの木をうえた』キム・サン・オ作詞、キム・オク・ソング作曲、フォ・ナム・キイ訳詞 P112-P113

→元歌：1960年『黄金の木 リンゴの木をうえた』（황금나무 등금나무 산에 심었다）金尚午詞、金玉成曲。

32『千里馬進軍』パク・サン・ウン作詞、チヨー・キル・ソク作詞、音楽センター訳詞 P114-P115

→元歌：1962年？『千里馬進軍』（천리마 진군）朴善允詞、趙吉哲曲

## 「青年歌集」の朝鮮歌謡

以上、戦後日本共産党が指導したうたごえ運動は世界平和を訴えて大いに盛り上がった。

うたごえ運動20周年の間に「青年歌集」は11冊が発行された。そこには日本の歌ばかりではなく、ソビエトを始め東欧の社会主义の国、西欧、アメリカ、アジア諸国、中国、北朝鮮などの外国の歌も多く紹介された。

今回のテーマである「青年歌集」に掲載された朝鮮歌謡は、38曲ある。

次のページ「青年歌集の朝鮮歌謡」を参照いただきたい。

内訳は次のとおりである。

南朝鮮の解放歌謡 3曲

1940年代の北朝鮮の歌 6曲

日本人が創作した歌 3曲

民謡 3曲

1950年代の北朝鮮の歌 14曲

1960年代の北朝鮮の歌 8曲

1960年代の在日コリアンの歌 1曲

合 計 38曲

第1篇 1951年初版では南朝鮮の解放歌謡が3曲載せられている。朝連（在日朝鮮人連盟1945.10.15-1949.9.8）の会議の前や集会で大いに歌われた。これらの歌を作曲した金順男（キム・スンナム 1917-1986）は越北すると北朝鮮でも9『人民遊撃隊の歌』（第2篇 1953年初版）を創作した。しかし、朝鮮戦争停戦後に彼ら南労党（南朝鮮労働党）系芸術家は肅清されてしまう。

北朝鮮の永遠の大ヒット曲である4『金日成將軍の歌』が第1篇 1953年改訂版で登場した。

また、日本人になじみの深い10『建設』が第1篇 1951年初版で北朝鮮の力強い社会主义建設のイメージを広めた。第2篇 1953年初版で民謡13『トラジ』、14『アリラン』が紹介された。

19『美しきわが故郷』第5篇 1956年初版は、1956年ワルシャワでの世界青年学生平和友好祭で北朝鮮の代表団から直接教わったものである。

30『平壤は心のふるさと』第8篇 1962年初版や33『黄金のリンゴの木をうえた』第10篇 1969年初版などが「北朝鮮は地上の楽園」という宣伝に利用された。

（終わり）